

ふるさと講座・自然系第4回目のお知らせ！

「秋の渡り鳥観察会～野付半島の先端を目指して～」

この時期数多く見られる「ガン・カモ類」を中心とした観察会を行います。観察場所は、野付半島の先端部で、最後の番屋から徒歩で先端を目指したいと思います。

半島先端から見える根室半島から知床半島の風景を見ることが出来ます。昨年は、希少種ユキホオジロを観察することができました。ぜひ、ご参加ください。



- 日 時 平成23年12月4日（日）午前10時～12時
- 場 所 野付半島（集合は野付半島ネイチャーセンター2階）
- 講 師 羅臼町立春松中学校 教頭 藤井 薫 氏
- 定 員 15名（電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を12月2日（金）までにご連絡ください。）
- その他 往復4キロ程度歩きますので、防寒着・長靴を必ず着用ください。図鑑・双眼鏡をお持ちの方は持参ください。当館でも若干貸出しします。

秘境オンネニクルの森を歩く！

～ふるさと講座歴史系第3回目～

10月30日（日）参加者22人で「オンネニクルの森」を歩きました。トドワラについて野付半島第2の名所になりつつある「ナラワラ」の奥に広がるこの森は、アイヌ語で「年老いた林、大きい林」という意味があり、国有林のため普段は入ることが出来ません。

ナラワラの枯木をまじかに歩くと、道路から見る風景とはまるっきり違う風景が広がります。また、アイヌ文化期のイドチ岬チャシ跡、擦文文化期の竪穴住居跡の野付1,2遺跡を見学しました。森の中の太古から変わらぬ風景は、とても神秘的でした。また、森の成り立ちや植物について、参加者の栗野武夫さんから聞くことが出来、とても充実した講座となりました。



第9回加賀家文書館特別展

「西別川の献上鮭」開催中！

期 間 平成23年9月20日（火）

～12月20日（火）

場 所 別海町郷土資料館 附属施設 加賀家文書館



近世の別海を探る 「西別川河口から北」その 10～

ホンシュンベツ

文献資料の標記は「ホロシュンベツ」「ホロンエンベツ」「ホンシュンベツ」「ポロシュンベツ」があります。春別川の支流の春川と呼ばれる川と思われます。

○地勢や建物など

松前藩復領時代 文政4年（1821）～安政元年（1854）

・「川有。鮭上るよし。仮屋有。此辺惣而上の方は平坦に而見通しよろし」

『初航蝦夷日誌』松浦武四郎 弘化2年（1845）

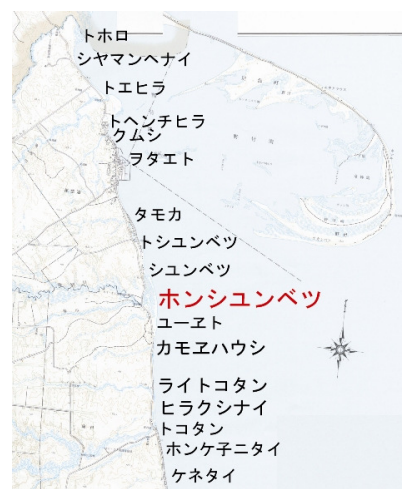
幕府再直轄時代 安政2年（1855）～慶応3年（1867）

・「但川有砂地なり」「但小川有」

『丙寅慶応二年正月吉日 万覚帳 安政辰三年調〔子モロ里程〕』加賀伝蔵 安政3年（1856）

・「…等、これらの川の上流は平地なので、一帯に芦や萩の生えた原野になっている。水あせし 河辺の芦の 乱れ葉に 残るも寒き 風の音かな。」

『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』松浦武四郎 安政3年（1856）



別海町郷土資料館だより No.148

発行日 平成23年11月1日

発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802（FAX 兼）

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

あっという間に冬が来てしまったようですが、とても穏やかな毎日が続いています。オンネニクルの森も夏場に入るには、ちょっと躊躇しますが、春先や秋は、歩きやすく気持ちが良いです。エゾシカの悲しげな鳴き声も聞こえ、別海町の秘境といったところでしょうか？（K.I）